

# 令和8年度 学校教育基本方針

令和8年 4月 1日

和泉市立緑ヶ丘小学校

校長 上田 晋郎

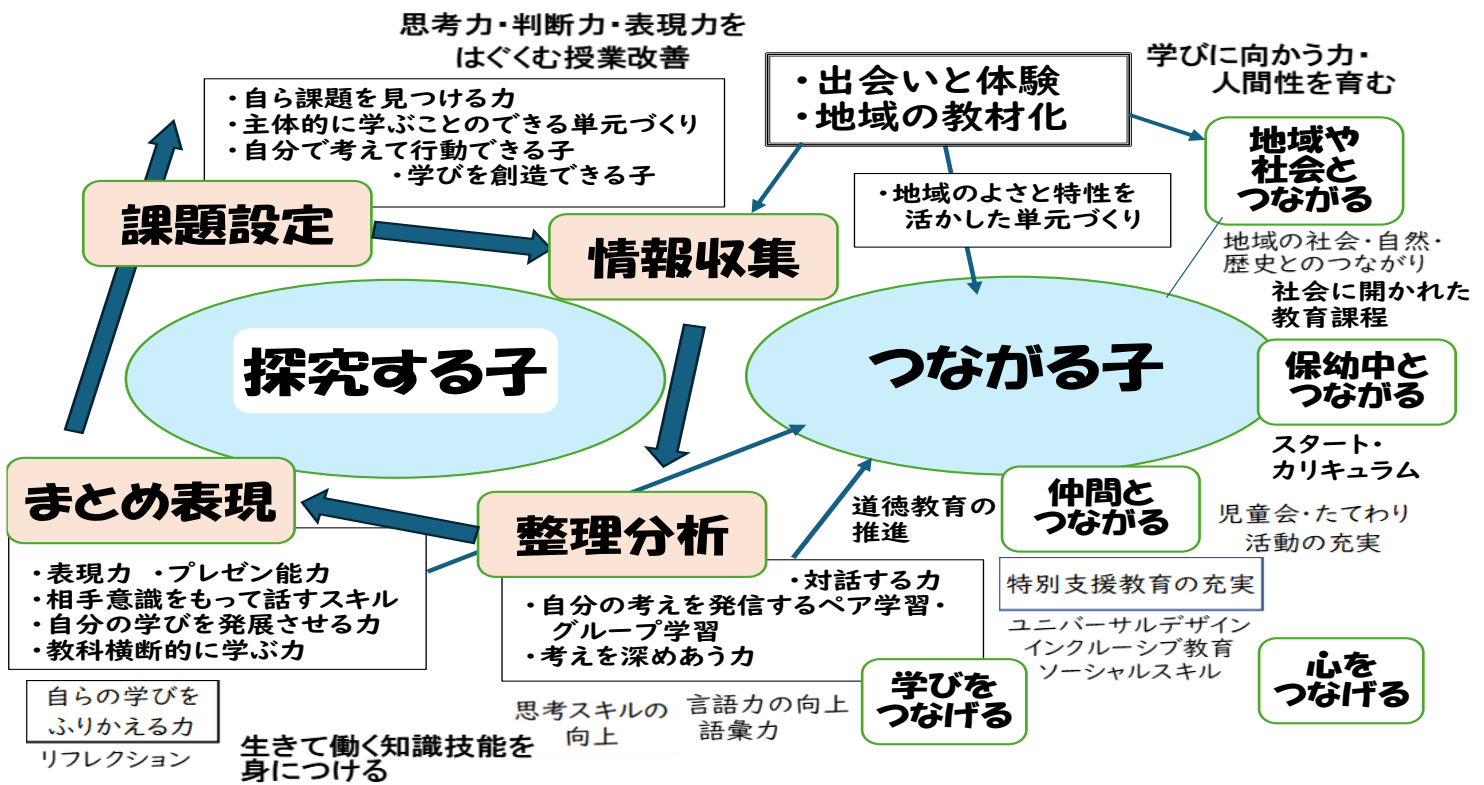
1 学校教育目標 『知・徳・体 バランスのとれた子どもを育てる』

2 めざす子ども 「かがやけ子ども」

かんがえる子、がんばる子、やさしい子、けんこうな子

3 学校教育重点目標 『探究する子 つながる子』

豊かな出会いと体験を糧に、主体的に学び考え行動できる資質・能力や、対話的な学習や体験を重視して、考えを深めたり広げたり伝え合ったり表現したりできる資質・能力を育て、「緑ヶ丘小学校で学んだことが将来子どもたちの力になる」ように本校の教育を推進していきます



## 4 基本方針

### (1) 確かな学力の育成

#### — 探究的な学びへの転換と学びの質の向上 —

- ・学習指導要領に基づき、基礎・基本の確実な定着とともに、思考力・判断力・表現力を育成する
- ・「問い」を起点とした探究的な学びを充実させ、主体的に学び続ける力を育てる
- ・子どもたちが「学ぶことが楽しい」と実感できる授業づくりを推進し、意欲と主体性を引き出す授業改善を図る
- ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進する
- ・教科担任制の導入・充実により、教員の専門性を生かした授業づくりを推進し、学習の質の向上を図る
- ・学年・教科を越えた指導体制を構築し、児童の多面的理解と個に応じた指導の充実を図る
- ・ICT（I 人 I 台端末）を活用し、学びの個別化・協働化・高度化を図る
- ・生成 AI 時代に対応した情報活用能力・情報モラルを育成する

- ・言語能力を基盤とした「総合的な読解力」を育成する
- ・読書活動・学校図書館活用を通して学びの基盤を強化する
- ・地域の教材化を推進し、教科横断的な学びを深化させる
- ・幼児期の学びを円滑に接続するスタートカリキュラムの充実を図り、幼児期の学びを大切にしながら主体的、協働的で深い学びの基礎を培う。

## (2)豊かな心と規範意識の育成

### — 多様性を認め合い、ともに生きる力の育成 —

- ・道徳教育を要として、人間尊重・共生の精神を育む
- ・人権教育を基盤に、多様性を認め合う態度を育成する
- ・いじめを許さない学校風土を醸成し、未然防止・早期対応を徹底する
- ・「ともに学び、ともに育つ」支援教育を推進する
- ・キャリア教育を通して、自らの生き方を考える力を育てる
- ・不登校児童支援を充実させ、すべての子どもの学びを保障する
- ・児童のウェルビーイングを高める学校生活の在り方を追究する

## (3)安全・安心で包摂的な学校づくり

### — 子どもの居場所とつながりの保障 —

- ・すべての子どもが安心して過ごせる居場所づくりを推進する
- ・校内教育支援体制を充実し、多様なニーズに応じた支援を行う
- ・外国にルーツのある児童をはじめ、多様な背景をもつ子ども一人ひとりに応じた支援の充実を図る
- ・健康・体力の向上と基本的な生活習慣の確立を図る
- ・防災教育・安全教育を推進し、自ら命を守る力を育てる
- ・児童虐待・ヤングケアラー等の課題に対し、関係機関と連携して対応する
- ・ICT活用における健康面・安全面への指導を徹底する

## (4)学校・家庭・地域の協働

### — 社会に開かれた教育課程の実現 —

- ・コミュニティ・スクールの機能を生かし、地域とともに学校づくりを進める
- ・「地域の教材化」を通して、学びと社会をつなぐ教育を推進する
- ・家庭との信頼関係を基盤に、子どもの成長を共に支える
- ・学校の教育活動を積極的に発信し、開かれた学校づくりを進める

## (5)教職員の資質向上と学校組織の強化

### — 学び続ける教師と持続可能な学校運営 —

- ・授業改善を軸とした校内研修を充実させ、組織的に授業力向上を図る
- ・OJT・メンタリングにより人材育成を推進する
- ・教科担任制の推進により、学年・学級を越えた協働体制(チーム指導)を構築する
- ・指導の分担と連携により、授業の質向上と教職員の負担軽減の両立を図る
- ・カリキュラム・マネジメントを確立し、教育活動の質を向上させる
- ・PDCA サイクルに基づく学校運営を推進する
- ・教職員一人ひとりの心身の健康とウェルビーイングの向上を図るため、働き方改革を推進する
- ・年次有給休暇の計画的な取得(年間6日以上)を推進し、安心して休める職場環境づくりを進める
- ・業務の見直しや分担の工夫により、年次有給休暇を取得しやすい体制を整備する
- ・チーム学校として専門職と連携し、組織力を高める

本年度の学校教育基本方針について、ポイントを簡潔にお話しします。  
大きな柱はこれまでと同様、「探究する子、つながる子」です。ただし今年度は、この言葉をより具体的に、日々の実践に落とし込むことを重視しています。

まず一つ目は、「学びの質の転換」です。

これまでの“教える授業”から、“子どもが問いをもち、考え、伝え合う授業”へと一歩進めます。そのために、「学ぶことが楽しい」と子どもが実感できる授業づくりを大切にしていきます。楽しさは甘さではなく、学びへの入口です。ここが今年度の大きなポイントです。

二つ目は、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」です。

一人ひとりに応じた学びと、仲間と学ぶことを切り離さず、両方を大切にします。その実現の一つの手段として、教科担任制を進めます。これは単なる分担ではなく、教員の専門性を生かし、チームで子どもを見る体制づくりです。

三つ目は、「すべての子どもを包み込む学校づくり」です。

不登校傾向の子どもや、外国にルーツのある児童など、多様な背景をもつ子どもたちがいます。その一人ひとりに応じた支援を行い、「ここにいていい」と思える居場所をつくることを重視します。

四つ目は、「学びのスタートを大切にすること」です。

スタートカリキュラムを充実させ、入学した子どもたちが安心して学校生活を始められるようにします。ここでのつまずきは、その後に大きく影響します。

そして最後に、「教職員の働き方」です。

年次有給休暇の取得を含め、働き方改革を進めていきます。これは義務ではなく、私たちが持続的に力を発揮するために必要な取組です。安心して休める環境を学校として整えていきます。

今年度の方針は、これまでの実践を土台にしながら、「学び方」と「学校の在り方」を一歩前に進めるものです。

子どもも教職員も大切にできる学校を、皆さんとともにつくっていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。